



認定特定非営利活動法人

RASA-Japan ニュースレター

理事長 藤井 典夫

〒468-0014 名古屋市天白区中平2-2627 Tel/Fax 052-803-1649

ホームページ <http://rasa-japan.com> e-mail info@rasa-japan.com

郵便振替 口座番号 00890-4-31185

受取人 特定非営利活動法人RASA-Japan

三菱UFJ銀行 平針支店 普通 0037025

トクティエイリカヅドウハウジンラサジャパン

2021.12
Vol.38

RASAの活動とSDGs

(持続可能な開発目標)

理事 藤井 忠子



SDGsの背景

経済のグローバル化で、資源開発による地球規模での自然破壊や莫大なエネルギー消費による地球温暖化による気候変動が顕著に現れ、この2項は地球上の全生物の生存にかかわる甚大な影響をもたらしています。

私たち人類の持続可能な発展にとっても、危機となっています。解決への対策がいつ迄に実行できるか！各国は解決への実効策に取り、組んでいます。学術研究や産業分野での連携が進み、多様な施策が広がっています。

振り返れば2000年に国連で、MDGs(ミレニアム開発目標)が制定され、最貧困層の生活のレベル向上で成果が出ましたが、格差は増すばかりで多様な角度から更なる目標17項目が提唱されたのがSDGsです。2015年に制定され、2030年が目標達成年です。

なぜこのような危機状態に陥ったのか、その経緯を今一度振り返ってみます。経済発展を目指して新自由主義が欧米で取り入れられて以降、市場競争が激化した結果、資本が最優先される体制へと移行しました。金融資本の重視により、合併や買収工作がくり返され、更にITの目覚ましい発展も並行して約20年が経過しました。

その結果、国家や企業や個人の経済格差は更に広がりその被害への対応が逼迫しています。命や人権、幸福になる生き方が認識されてきました。産学協同してよりよい方策がとられ実現が早まることを願うばかりです。先進国では豊富な物資で、速くて、便利で、わずらわしさが少ない社会、発展途上国のあちこちで多くの犠牲になっている人々のことに関心を持たねばなりません。

世界中で、利潤追求に向かってコストを下げるために、人権費削減に照準を当て、利益を株主配等へ重視、国際競争力をつけるために、内部留保に重点を置く経営姿勢が長く続きました。

その結果、国内では正規雇用削減、非正規雇用の増大で、平均賃金は世界ランクで大幅に下がりました。更に海外の豊富で安い人件費を求め、生産拠点移動。児童労働や人権侵害等が世界で大きな問題になっています。その被害が最も大きく、しかも直接に影響するのは、発展途上国や資源の乏しい国の貧困層の人たちです。働く場所がないので、有り余る労働力の対価は長い間低いまま押さえられ、この度のコロナ禍では、国家財政の不足により、医療体制の劣悪状況やワクチン接種率の低さ等格差が顕著です。

国連のスローガンの実現に向けては、今一度早急な国際連携と協力が欠かせません。資本主義は産業革命後資本主義は発展し、確かに世界全体では豊かさを享受してきましたが、もともとその理論は、人々の幸福を理念に置いた社会正義に基づいてその恩恵が広く行き渡ると考えられていたはずでした。現在の世界の経済の在り方を見直し、一握りの少数者による莫大な富の偏在は放置するわけにはいかなくなっています。

しかし、最近のパリでのCOP26(国連気候変動サミット)で、議論の末各国の諸事情や考え方に温度差があり、実現は先延ばしとなりました。私たちのかけがえない地球環境を守り、持続可能な状態を条件に発展し、「地球の誰も取り残さない」理想に向かっていくこと。そして、後世につなぐ人類の責務を個人が自分のこととして努力することが、根底に必要と思います。

RASAとSDGs

人権にかかる最大の問題は貧困、飢餓、教育対策です。RASAの活動は、国連が制定する以前の1999年活動の開始時から、これらの目的に合致していました。文明発達の恩恵から取り残された地域や人々に出会い衝撃を受け、人の命がまず大事にされ、誰もが人間らしく生きられる世界を願い活動してきました。



目標1 貧困をなくそう

仕事場と仕事づくり

現地日系企業納入の縫製品(ウエス)事業を興して雇用拡大

2005年 パン製造販売と生活支援棟の建設(セブ州)

2006年 オクラ栽培等事業受注による雇用拡大(カビテ州)

2010年 縫製工場建設(ブラカン州)



目標2 飢餓をゼロに

栄養失調児に給食を支援、栄養指導、食品配付

2005～2011年 教会で栄養失調児への給食支援(セブ州)

2011～2014年 サウスビル I 小学校建設時に極貧家庭の児童救済の給食を開始
PTAの協力で、民家にて実施(ラグナ州)

2015～2020年 学校長の協力で学内に移転、栄養失調児100人を給食支援
給食支援実績に教育省から表彰を受けている

2021～現在 コロナ禍による通学禁止と失業で生活困窮家族のため、
140人に食品支援



目標4 質の高い教育をみんなに

学校建設 32校

1999年～2020年 22年間 毎年学校建設継続

奨学金支給、小学校・中学校の登校支援

2021年 コロナ禍で建設不可

2022年 小学校建設 33校目着工予定(ブラカン州)

1999年からフィリピンの田舎を中心に支援を開始、継続中

日本の学生ボランティアの協力を得て、学校建設事業からフィリピン支援を始めました



窓、照明、机椅子のない教室



RASA建設校舎



建設活動ボランティア

フィリピンの歴史が現在に繋がっている

アジアの諸国は、欧州諸国の長い植民地政策下にありました。フィピンではスペインによる約330年に及ぶ支配下にあり、教育をつけないで従順に従う愚民政策や支配者が現地の大地主を取り込んで、強固な大農場政策を取り、人々はそこで奴隷のように働きました。人間らしく生きる開発教育が大幅に遅れました。

残念ながら、今もそれらが習慣や文化として日常に垣間見ることができます。資本家や大地主と労働者の境界が明確にでき、それが教育の格差になり、貧しい人が貧困の連鎖から抜け出せない現象となっています。アメリカの約50年間の植民地時代を経て戦後独立国となり、民主主義、資本主義が入ってきて、苦しい過去から、消費の楽しさや生活の豊かさを享受する

中で、借金が日常化して、生活の仕方に根付いていったのです。だから、将来に備える習慣は少ないのです。開発教育が必要です。学校教育の期間が世界水準に合うように2年間延長、又教育レベルの向上が必須と、今年度からまず制度としてカリキュラムが改正され、教育省は、授業時間が200時間から10%増加プランを提示しました。しかし、建前と実際が異なるのが通例で、10%は自宅学習なのです。

人々は、楽天的なメンタリティーなので、貧しくても苦にせず暮らせるのでしょう。その日がHappy ならいいのでしょう。分かちあって生きる楽天的な生き方は、私たちに教えてくれるものがあります。

食品配付支援を継続

コロナ感染の急拡大で、2020年3月半ばに突如学校封鎖、従来継続してきた給食支援は不可能となりました。支援してきた困窮児童の支援の方法について、連絡がスムーズにいかない中、学校と協議を繰り返し、RASAが支援する資金で食品を準備、配付することに決定しました。

- ◆ 期 間: 2021年9月～2022年6月
- ◆ 対 象: 140人とその家族-幼稚園から6年生まで(7学年)の各学年20人を先生が選択
- ◆ 配付方法: 保護者に手渡しする-週1回の自宅学習用プリントを受け取るための登校を利用
※欠席の場合は連絡を取り、自宅へ配達
- ◆ 予 算: 約295万円
- ◆ 配付食品の選定
 - ①成長期に必須の栄養素が取れる食品の組み合わせを重視
 - ②安全に保管できるもの、衛生面の配慮

【教育年度改正】

フィピンでは世界での教育水準がかなり低い現状から、「国家レベルのアップは教育だ」と、教育省は学校制度を革新。学校年度が従来の6月～翌年3月から、9月～翌年6月に変更、授業時間数の10%増加と制度化されました。

【配付食品の選定と調達の努力】

成長期に必要な必須栄養素やカルシウム、たんぱく源を含んだ、配付しやすい食品を選定。

そして、冷蔵庫や熱源等が無い家庭が多い事情から、保管しやすく、簡単に食べることのできる食品を選んでいきます。

調達には、食品毎に安価で十分な量を仕入れられる店を選定し遠くに出かけ購入、分配、運搬等の地道な工夫をしています。

RASAの現地スタッフ デニス さんが、「少しでも多くの食品が手にしてもらえるように」と温かい配慮をしてくださり、感謝しています。



左から、現地スタッフ デニス、支援対象児童保護者、校長先生



感染予防対策を取って配付の受付

【食品配付支援】 対象世帯の環境

食品配付支援対象児童140人の家庭は、とても厳しい環境です。
 140世帯の30%が父母共に収入が無く、父親の32%、母親の80%が無職です。
 対象世帯の仕事も日雇や非正規等で、継続して収入を得ることができません。
 親せきや近所、地域で相互に助け合って、その日その日を生きています。
 「助けられる時に援助し、自分が困った時は助けてもらう」
 それが多くの人々の暮らし方と聞いています。
 収入のない生活で、せめて食事だけでもできるように、継続して支援ができますように、
 皆様のご支援をお願いいたしております。

【世帯ごとの家族人数】

家族人数	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人	11人	12人	13人
世帯数	16	30	40	20	17	11	2	1	1	1	1

【支援対象児童の両親の仕事】

(1ペソ:約2.2円)

父の仕事	人数	月収(単位:ペソ)
無職	42	0
建設労働者	34	1333～5000
運転手	19	2000～5000
死亡(母子家庭)	10	0
工場労働者	5	4000～8000
トライシクル運転手	5	1000～2000
大工・建具・塗装業	3	3500～5000
お手伝い	3	4000
修理・溶接機工	3	3000～3500
農業	3	3000
生産労働者	2	8000
土建労働者	2	7000
車両整備士	2	6000
交通整理員	1	8000
電気技師	1	7000
車掌	1	4000
販売	1	3000
配管工	1	3000
側溝掃除	1	3000
ごみ収集	1	1000

母の仕事	人数	月収(単位:ペソ)
無職	111	0
お手伝い	9	0～6000
販売	8	1000～3000
工場労働者	5	7500～10000
死亡(父子家庭)	2	0
医療従事者	1	5000
検査官	1	5000
ごみ回収	1	2000
ジープニー運転手	1	1500
庭師	1	1500

【RASA 1ヶ月分の配付食品】

予 算 : 840ペソ(1世帯 40ペソ×21日)

配布物 : 米ー約20kg

粉ミルクー33g / 32袋、

肉や魚の缶詰ー約30缶

玉子ー約40個

ヌードルまたはパン等

※月毎に授業日数が違うため、1ヶ月の平均値で
 表記(家族人数5人を想定して配付食品を準備)

全世帯の平均月収が約3100ペソですので、
 かなり大きな支援となっています。

お礼の言葉が届きました - Thanks Letter -

児童からお礼のお手紙が届きましたので、ご紹介させていただきます。
皆様のご支援が、子どもたちと家族の笑顔に繋がっています。深く感謝申し上げます。



私は、RASAから多くの食品頂き、感謝しています。
それは私だけでなく、特にこのパンデミックの間に他の多くの支援対象者にとって大きな助けです。
私は、RASAがより多くの人を支援できるようになることを願っています。
どうもありがとうございました。
私たちは、あなたを愛しています。
本当にありがとう！

2年 Janine Borillo



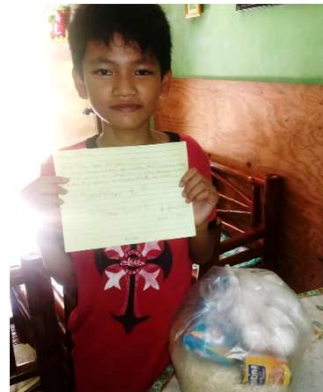
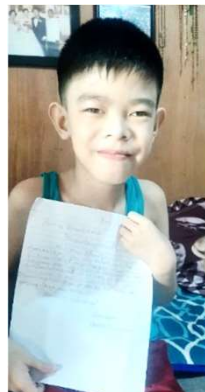
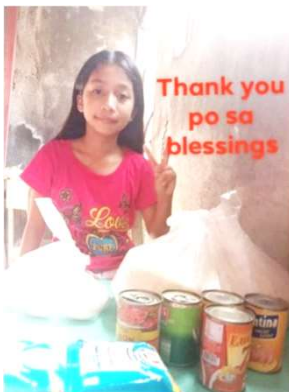
私たちに食品配付をしてくださり、とても感謝しています。
私は幸運にも、多くの在校生の中から支援対象児童の一人に選ばれました。
そして、私の家族と毎日の暮らしの大きな助けとなっています。
私たちの大きな助けとなるので、貧しい家庭にこのような支援を続けていただきたいと思います。
重ねて、どうもありがとうございました。

4年 Cedrick Relente

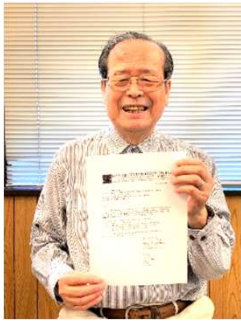


こんにちは！ 私たち家族を食品配付支援対象に選んでくださり、
どうもありがとうございます。
私の夫は正規雇用ではなく、4人の子どもがいるため、支援は
私たち家族の大きな助けです。
この支援が継続的な支援となることを願っています。
RASAに深く感謝しています。ありがとうございました。

幼稚園 Micah.Fの母
Rosemarie Mejila



【クラウドファンディング】新校舎建設契約を締結しました！



バラグタス・セントラル・スクール新校舎建設契約を現地建設会社と無事締結いたしました。皆様の温かいご支援があり、新校舎建設に一步ずつ進んでおりますことに、深く感謝申し上げます。

12月に材料調達を開始します。建設工事着工は2022年1月5日、竣工は4月30日の予定ですが、コロナ禍で遅れる可能性があります。進捗情報を随時ホームページやSNSでご報告させていただきます。一日も早く劣悪な教室から解放されますように。

今後ともRASAの活動を応援いただきますよう、よろしくお願いいたします。

RASAの学生ボランティアは今どうしてる？

「学生時代の時間を自由に使える時にこそ、新しい体験を。勇気を出して行動して」と、ボランティア活動参加を奨め、工面した自費で活動に参加した彼等は、帰国後も繋がっています。同じ経験を通じた共感が支えています。ボランティア各自の近況を手紙やSNSでRASAに報告してくれたり、互いの活動や交流がみられます。参加者同士の結婚や転職の報告、子連れで来訪など、体験を通してできた人間関係や新たな価値観などが、根底となっているようです。活動の同期の繋がりが他年度グループに呼びかけ、共にRASAで集う会を開きます。コロナ禍で同窓会が無理でも、クラウドファンディングでも繋がりが支援へ通じて、大きな成果になりました。他のボランティア活動で類を見ないものです。「RASAのボランティア活動」は人の繋がりの大切さを証明しています。

寄附金受領証明書をお送りいたします

ご寄付をいただき、ご希望される方へ『寄附金受領証明書』を発行しております。本年 令和3年の寄附金より、経費節減のため1年分を合算して、発行・送付させていただきます。発送は、令和4年1月中旬に予定しておりますので、今しばらくお待ちください。発行のご希望やお問い合わせ、ご不明な点は、RASA-Japan事務局までご連絡ください。
(TEL 052-803-1649 Mail info@rasa-japan.com)

会員が減少傾向です！活動を支援いただける方を募集しています！

資料をお送りいたしますので、RASA-Japan事務局までご連絡ください。

※「遺贈によるご寄付」、「相続財産のご寄付」は、相続税が免除されます。お志のある方はご連絡ください。

今後の活動予定

フィリピンの新型コロナ感染症対策に柔軟に対応しながら、学校建設と給食支援(食品配付支援)活動を進めてまいります。

- 1月 学校建設工事着工
寄附金受領証明書発行(中旬発送予定)
- 4月 新校舎竣工(30日予定)
- 5月 定期総会

RASA-Japanは皆様の会費と寄付金で運営されています

ホームページ

<http://rasa-japan.com>



YouTube JP



@rasa_japan



@rasa.japan



@rasa_japan

